

電気工学科			国語				
学年	第2学年	担当教員名	館下 徹志				
単位数・期間		3単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		・日本語で書かれた様々なジャンルの文に接して、話すこと・聞くこと・読むこと等、基礎的な言語生活の充実を図る。 ・日本文化の伝統を知り、そこに根ざした言語の力・はたらきについて学ぶとともに、日本語の表記能力を高める。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		・授業中も国語辞典を活用し、語彙力・読解力・表現力に自ら磨きをかけてほしい。					
到達目標		・言語表現の文脈に沿って文章を正しく解釈することができる。 ・物事を客観的に捉え、根拠を示しつつそれを効果的に表現できる。 ・現代日本語を正確かつ丁寧に表記することができる。					
成績評価方法		・定期試験の成績(90%)と「読書レポート」・「表記課題」等、提出物の内容(10%)により評価する。合否判定はこれに同じ。					
テキスト・参考書		テキスト:『高校生の国語総合』(明治書院)『新現代文改訂版』(大修館書店) 参考書:『伝わる・揺さぶる! 文章を書く』(山田ズーニー著 PHP新書) 『考える力がつく論文の書き方』(小阪修平著 大和書房)					
メッセージ		授業には、受け身ではなく、自ら学び取る意欲を持って臨んでほしい。論理的な思考能力は、日頃の継続的な「読む経験」によって培われる。新聞を読む習慣を身につけ、論理性の高い文章に接する機会を増やそう。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1. ガイダンス 1回 2. 「指」(小説・鷗沢萌) 7回 3. 「筒井筒」(古文・伊勢物語) 7回 4. 日本語表記練習 7回				1. 授業の進め方や科目の到達目標が理解できる。 2. 作中人物の心の動きを読み解くことができる。 3. 正しく音読し、物語の展開を理解できる。 4. 日本語を表記する上でのきまりを理解し、実践できる。			
前期中間試験				実施する			
5. 「コインは円形である」(評論・佐藤信夫) 6回 6. 「苛政は虎よりも猛なり」(漢文・礼記) 6回 7. 短歌鑑賞・実作 3回 8. 日本語表記練習 8回				5. 文章の論理的な構成を理解できる。 6. 書き下し文が書け、内容を理解できる。 7. 近代短歌の特徴が理解でき、音数律に合わせて短歌を詠むことができる。 8. 同音・同訓異義語の使い分けができる。			
前期期末試験				実施する			
9. 「羅生門」(小説・芥川龍之介) 7回 10. 「宇治川の先陣」(古文・平家物語) 7回 11. 日本語表記練習 7回				9. 登場人物の心理の変化を理解できる。 10. 正しく音読でき、登場人物の行動の意図が理解できる。 11. さまざまな禁則を理解でき、正しく実践できる。			
後期中間試験				実施する			
12. 「サハラ砂漠の茶会」(随想・千住博) 5回 13. 唐詩 5回 14. 「逆さに地図を眺めてごらん」(評論・小松左京) 5回 15. 日本語表記練習 8回				12. 筆者の感受性に沿って、文章の内容が理解できる。 13. 漢詩のきまりを理解し、描かれた世界を想像できる。 14. 物事を見る方法の多様性が理解できる。 15. 送りがなに注意して、常用漢字を正しく表記できる。			
後期期末試験				実施する			